

## 伝統構法の現代への展開

長野県建設労連では、伝統技能を次世代へ継承するため、県や内外関係者とタイアップしながら、中堅大工を対象とした「信州職人学校・伝統大工コース」を、本年6月より開講しました。

このコースは、信州の歴史と風土をふまえ、建築大工としての伝統的技量の向上を図るとともに、現代の多様なニーズの中で新たな仕事分野を開拓しうる能力の育成をめざすもので、毎週土曜日、半年間の訓練を行ないます。経験等に応じ、「基礎コース」と「応用コース」を設け、今年度は基礎コースから始めます。各コース修了者には、県認定の「信州伝統大工技能評価試験」を実施し、合格者に「信州伝統大工」(1級、2級)の称号が与えられます。今年度は、基礎コース16名、応用コースの受講条件となる入門講座に13名の計29名が受講しています。

この公開講座は、通常の授業では盛り込めない内容をテーマに、受講生の座学を兼ねて、組合員や一般市民も参加できるオープンセミナーとして毎月1回開催するものです。

第5回は、先人が伝える技や知恵を引き継ぎ、現代に生かすための「伝統構法の現代への展開」をテーマとした特別講座を開催します。

伝統建築に関心をお持ちの若手・中堅職人、事業主、設計者、市民、学生など、多くの方々のふるっての参加をお待ちしています。

日時：2009年10月3日(土)13:00~17:00

会場：「長野県松本技術専門学校/ふれあい技能センター」(松本市寿北7-16-1)

受講料：無料

定員：40名(定員になり次第締切)

プログラム：

### (1) プレ講演 / 「伝統構法見直しへの動き」

秋山恒夫 氏 (職業能力開発総合大学校東京校元教授、信州職人学校コーディネーター)

伝統構法をとりまく状況は厳しくなる一方だが、国交省の3年計画等をきっかけに新たな動きが生まれつつある。行政や団体の動きなど、この間の動きを簡単に報告する。

[1947 兵庫県生まれ、横国大卒・東大大学院修了、原広司研究室・菊竹清訓設計事務所にて設計修業、1981~東京校にて教鞭、同校キャンパスの全面再開発を実現。「ものづくり大学」、「東京建築カレッジ」等の立ち上げにも協力。(社)日本建築学会特別研究委員長、(社)実践教育協会常任幹事、NPO 伝統木構造の会理事。]

### (2) 基調講演 / 「伝統木造の耐震化と耐震性能検証」

木内 修 氏 (榊木内修建築設計事務所代表、NPO 伝統木構造の会理事)

社寺から個人邸・料亭まで、一貫して伝統木造を手がけてきた立場から、構造即意匠を特質とする日本の伝統木造技術を学ぶ。特に、伝統木造を現代の耐震基準にあわせるには、耐震化にむけた架構体を作り検証が必要なことから、社寺建築での実践を通し、耐震化架構体の作り方、耐震実験の方法、耐震性能の評価法等について解説する。

[1947 年千葉県生まれ。東京理科大学卒業、清水建設(株)入社。在籍中、伊藤(平左工門)建築設計事務所にて伝統木造社寺の設計研修、木造社寺建築の設計・研究開発・構造解析等に従事。2003 建築設計事務所設立。主な作品：大石寺六壺、穴八幡宮随神門再建、伊勢神宮外宮神楽殿、靖国神社参集殿等。著書：「現代棟梁の設計術 五意達者への道」(新建築社)他。清水建設嘱託、東京大学大学院非常勤講師、NPO 伝統木構造の会理事。一級建築士/棟梁専攻建築士。NPO 木の建築フォーラム、日本住宅教室等でもセミナー。]





大石寺六壺



伊勢神宮外宮神楽殿



著書「現代棟梁の設計術」

### (3) 構造模型と構法解説 1 / 「信州の伝統的民家」

宮澤郁夫 氏 (宮澤建築代表、信州職人学校講師)

新たに製作した 1/4 の民家構造模型を素材に、多くの民家再生に携わってきた経験から、信州地域に見られる伝統的構法を解説する。同時に、先人たちが伝える知恵や技をどう現代に生かして行けばいいか、具体例をまじえながら考える。

〔1946 年長野県生まれ。大工一筋に 45 年。28 歳の時、新宿西落合で茶室工事に携わり、数寄屋建築に興味を持つ。2007 年、開田高原の古民家をパリの国立博物館に移築復元する工事に棟梁として参加。茶室、数寄屋、民家再生など純和風建築を得意とする。(財)京都伝統建築技術協会会員、信州名匠会会員、長野県建築士会「信州木造塾」運営特別委員長、前長野県住宅審議会委員〕



旧豊科町文化財指定堀屋敷の再生



新潟の築 85 年民家の移築再生



旧開田村古民家のパリ博物館への移築



### (4) 構造模型と構法解説 2 / 「新伝統構法による現代住宅」

三浦保男 氏 (有)三浦創建代表、信州職人学校講師)

新たに製作した 1/4 の新伝統構造模型を素材に、これまでの住宅実践を通して、伝統構法を現代に発展させた新伝統構法の要点を解説する。あわせて、これまで行った実大実験や間伐材利用構法等についても解説を加える。

〔地元で大工職人の道に入り 38 年。伝統構法の素晴らしさを知り、匠の技を活かす木組みの家を実践。通し貫構法をベースに、独自の改良工夫を加えた新伝統木構法を考案。性能検証のために実大実験も実施。2008 年、国交省・地域木造住宅市場活性化事業により、県産材の間伐材や小径木を利用した新構法を開発、販売促進にも着手。若い職人の育成にも取り組み、現在 7 人の若手を抱える。NPO 伝統木構造の会副会長・信州事務局代表・大工会副会長〕



新伝統構法による住宅



霧訪庵軸組模型



間伐材の家

申込方法：別紙申込用紙に必要事項を記入の上、9月30日(水)までに FAX にてお申込下さい。受講料は、組合員の場合は申込締切日までに所属組合へ納入して下さい。組合員以外の方は、公開講座当日に受付でお支払い下さい。

主催 (申込・問合せ)：長野県建設労連 伝統建築技能継承事業運営委員会  
〒390-0864 松本市宮淵本村 1-2 建労会館内

長野県建設労働組合連合会 TEL 0263 (39) 7200 FAX 0263 (39) 7202

FAX 0263-39-7202

長野県建設労働組合連合会 / 伝統建築技能継承事業運営委員会宛  
担当 / 宮川、矢ヶ崎、丸山

## 信州職人学校第5回公開講座 受講申込用紙

### 今回のテーマ 伝統構法の現代への展開

講師1：秋山恒夫氏【職業能力開発総合大学校東京校元教授、信州職人学校コーディネーター】

演題：『伝統構法見直しへの動き』

講師2：木内 修氏【㈱木内修建築設計事務所代表、NPO 伝統木構造の会理事】

演題：『伝統木造の耐震化と耐震性能検証』

講師3：宮澤郁夫氏【宮澤建築代表、信州職人学校講師】

演題：『信州の伝統的民家』

講師4：三浦保男氏【(有)三浦創建代表、信州職人学校講師】

演題：『新伝統構法による現代住宅』

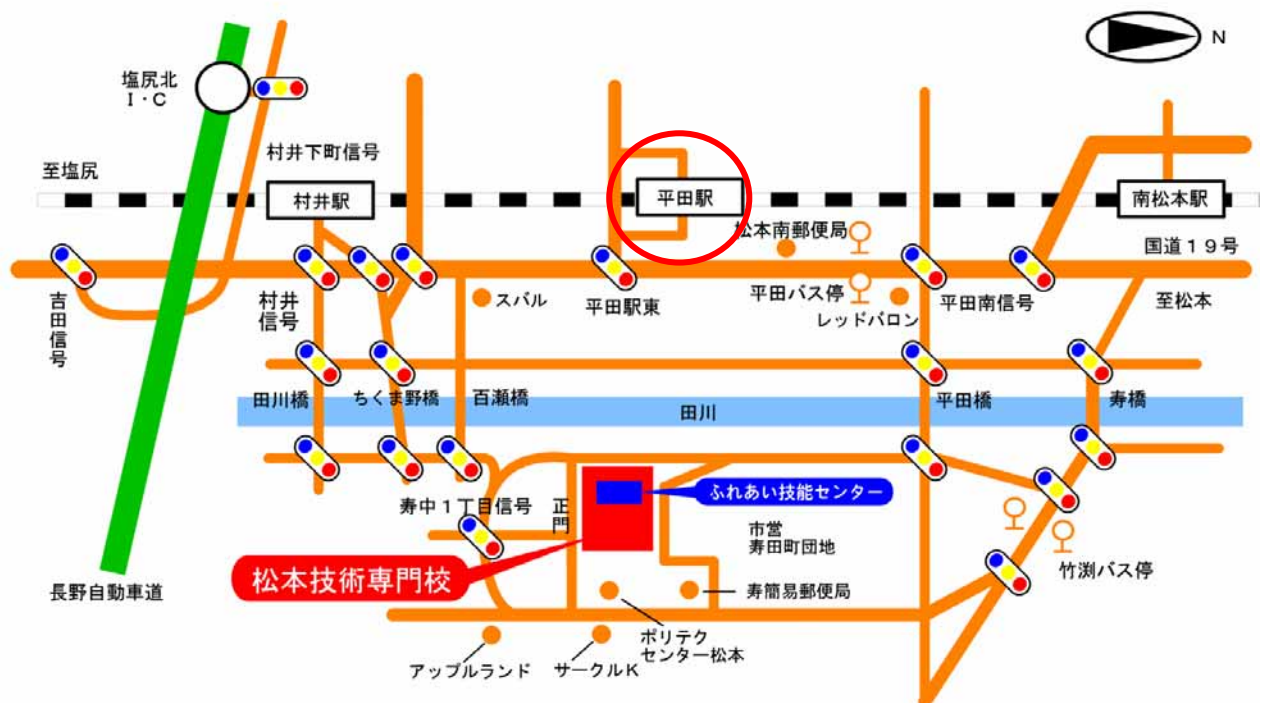
開講：2009年10月3日(土) 午後1時～午後5時

会場：長野県松本技術専門校 / ふれあい技能センター(松本市寿北7-16-1)

受講料：無料

申込者氏名		
組合名 <small>&lt;組合に所属していれば記入&gt;</small>		
連絡先	事業所名	
	住所	〒
	TEL	
	FAX	
要望など		

# 長野県松本技術専門校 案内図



- ・長野自動車道 塩尻北I・Cより4.0km 自動車で10分
- ・JR平田駅より1.6km 徒歩20分